

## 平成28年度 学校経営計画

### 1 教育目標

#### (1) 基本目標

国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、心身ともに健康で創造力に富み、豊かな情操と正しい判断力・実践力のある心豊かで、たくましく生きる児童を育成する。

#### (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

心豊かで思いやりのある子 健やかでたくましい子 自ら学び自分をのばす子

《児童目標》 やさしい子

元気な子

よく学ぶ子

### 2 学校経営の理念

「明るく 楽しく 活気あふれる昭和小学校」

児童が明るく、楽しく、活気があふれ、行きたくなる学校（児童）、そして行かせたい学校（保護者・地域）、勤めたい学校（教職員）にしたいと考える。

そのために、教職員が使命感に燃え、組織として一致団結して教育活動に取り組みながら、保護者や地域との協働のもと、子どもが楽しく学び居がいのある学校づくりを目指していく。

### 3 学校経営の方針

- (1) 「学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」の趣旨に基づき、21世紀をたくましく生き抜く力の育成を目指して、児童一人一人がそれぞれのよさを発揮できる、活力ある学校づくりに努める。
- (2) 本校の教職員としての誇りを持ち、サービスを遵守するとともに、自己研鑽に努め、真摯な態度と寛容な心をもって昭和小教育の推進に努める。
- (3) 基本的生活習慣を身につけて、健康で安全な生活ができる児童の育成に努める。
- (4) 生命尊重の心や思いやりの心など、豊かな心を育成するための教育活動の推進に努める。
- (5) 基礎・基本を重視し、確かな学力を身に付けさせるとともに、主体的に解決できる児童の育成に努める。
- (6) 「夢工房（昭和小魅力ある学校づくり地域協議会）」を核として、星が丘学校園における小中学校と関係団体との連携を強化しながら、地域の教育力を生かした学校経営に努める。

[星が丘地域学校園教育ビジョン]

未来を拓く豊かな社会性の育成

### 4 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

- (1) 学校運営 自分、社会、環境との豊かなかかわりを通して、自己の成長や変容を目指し、主体的に取り組む意欲や態度の育成

《合言葉》 “からだ元気 ころ元気 元気に学ぶ 昭和の子”

#### (2) 学習指導

##### ○ 未来を拓く豊かな社会性の育成

- ・表現力を高めるため、発達段階に応じた表現の工夫を取り入れた授業を展開し、コミュニケーション能力の育成を図る。
- ・自ら課題意識を持ち、家庭での学習の時間や内容を、自発的に選択したり決定したりできる態度・習慣を形成する。

#### (3) 児童生徒指導

自分を大切にし、他者もかけがえのない存在として大切にする態度・実践力の育成

##### ○ ・心のこもったあいさつや言葉づかいの育成

- ・自分・友人・家族・地域を大切に思える心の育成
- ・進んで自分の責任を果たそうとする力や態度の育成

#### (4) 健康・体力

自他の命や健康の大切さを知り、健康・安全・体力の向上に心がける態度・実践力の育成

##### ○ ・健康・安全に心がける力や態度の育成

##### ○ ・進んで体力や運動能力を養う態度の育成

- ・仲良く・規律ある生活のできる自立の心の育成

### 5 学習指導、児童生徒指導、健康（保健安全・食育）・体力に関する取組

※ 様式2～4参照

## 6 特色ある学校づくり等に関する取組

### (1) 育てたい資質・能力

自分、社会、環境との豊かなかかわりを通して、自己の成長や変容を目指し、主体的に取り組む意欲や態度

### (2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

#### ア からだ元気

- ◇・地域の人的資源、自然環境資源等豊かな教育資源を活用した体育的行事の実施
  - ・元気っ子健康体力チェックの結果を踏まえ教科体育で継続的に補強運動の実施や授業内容の工夫改善
- ◇・児童が自ら意欲を持って取り組める水泳及び縄跳び検定の実施
- ◇・運動委員会主催のミニスポーツ大会の行事開催
  - ・定期的な「食育だより」や「保健だより」の発行による健康意識の啓発と推進
  - ・関係機関と連携協力した交通安全教室、不審者を想定した避難訓練・防犯教室等の実施

#### イ ころ元気

- ◇・児童会を中心とし、夢工房・PTA・地域諸団体などと連携・協力をした、地域ぐるみのあいさつ運動の推進（通年）
- ◇・縦割り班活動を中心とした「のびのびタイム」の効果的な実施
- ◇・学校行事や児童会活動の一環としての縦割り班活動の積極的な取組
- ◇・児童の規範意識と実践力を高める「歩こう歩こう静かに歩こう運動」の推進（通年）
  - ・いじめアンケート（6月、10月、1月）やQ-U検査（6月、11月）の活用といじめゼロ月間、いじめゼロ集会の内容の充実
- ◇・地域の教育資源を生かし、豊かな感性をはぐくむ直接的な体験学習の推進（年間）
  - ・朝の日課の「読書タイム」等、本に親しむ環境作りや読み聞かせの充実
- ◇・幼保小連携の積極的な推進（八幡台幼稚園との交流）

#### ウ 元気に学ぶ

- ◇・八幡山公園における学校行事（山野横断大会）や野外給食、学級活動、生活科・総合的な学習の時間等、多様な活動を通じた人・自然とのふれ合いの場の設定
- ◇・地域の人的・物的資源を活用したインターンシップ（6学年）・まち探検（2年）等の実施
- ◇・授業や読み聞かせ・教材作成等ボランティアの積極的活用
  - ・かがやきルーム及びそよかぜ学級（特別支援学級）と連携した特別支援教育の推進
  - ・「二人組」「小グループ」「全体」など、児童の実態やねらいに応じた学習形態の工夫
  - ・基礎・基本を確実に定着させるための学習の時間（じっくりタイム）の日課表への位置付け

## 7 本市の重点施策・事業と関連する取組

### (1) 「小中一貫教育・地域学校園」に関する取組（宮っ子心の教育、宮・未来キャリア教育に係る取組含む）

- ・カリキュラムの地域学校園化・自校化による義務教育9年間を見通した各教科等の指導
- ・地域の教育資源や人材を生かした宮っ子心の教育、宮未来キャリア教育の推進
- ・学校行事（運動会・音楽集会等）や地域行事（昭和まつり等）における中学生の参加協力

### (2) 「地域とともにある学校づくり」に関する取組

- ・夢工房、PTA、地域諸団体などと連携・協力した、地域ぐるみのあいさつ運動の推進
- ・「七夕かざり」や「盆踊り」、「どんど焼き」等、地域と協働で行う伝統行事の開催

## 平成28年度 学習指導に関する取組

### 1 学習指導上の主な実態

#### (1) 学習内容定着度調査などから

- ・国語では、学年差、個人差があった。「書く能力」では、どの学年も正答率が高く、ほぼ身につけているといえるが、「話す・聞く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」では、正答率が低い学年があった。領域別にみると、設問の指定通りに「書く」ことや「説明文の読み取り」については、正答率が高い学年が多いが、「敬語」や「慣用句」「ローマ字」などの「言語事項」については、正答率が比較的低い傾向であった。今後、重点的に定着を図っていく必要がある。
- ・算数では、各学年とも市の平均と同程度か上回っており、ほぼ身につけているといえる。「数量や図形についての知識・理解」については、どの学年も正答率が高く、市の平均を上回っている。「数量や図形についての技能」においても、正答率は概ね高いが、学年差や個人差が見られる。領域別に見ると、「図形」や「数量関係」は他の領域に比べて低かった。低学年からの操作的・体験的な学習を重視し、繰り返し指導することにより定着を図っていく必要がある。
- ・社会では、すべての観点で市の平均を上回っており、ほぼ定着していると言える。領域別では「工業生産」や「情報産業や情報化社会」は市の平均を大きく上回っているが、「国土の様子」や「農業や水産業」においては正答率が低かった。今後も資料活用の体験的な学習を重視し、定着を図っていききたい。
- ・理科では、概ね市の平均を上回っている。「科学的な思考・表現」は正答率が高く、全学年ともに市の平均を上回っているが、「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」については正答率の低い学年がある。今後も観察・実験など体験的な学習を重視し、知識・理解の定着を図っていききたい。

#### (2) 学習と生活についてのアンケートから

- ・「勉強が好きですか」という質問に対する肯定的な回答の割合は、学年によって差が見られるが、下学年で約95%以上、中学年でも85%以上と望ましい傾向と言える。また、「学校の授業がわかるか」という質問に対する肯定的な回答の割合は市の傾向を上回っている学年が多かった。
- ・授業への取り組み（望ましい学習習慣）については、「先生や友達の話をも、最後まできちんと聞いている」「授業を集中して受けている」に対する肯定的な回答はほとんどの学年で90%以上と他の質問に比べて高かったが、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」に対する肯定的な回答は他と比べて低く、学年差も大きかった。学習に対する気持ちや態度についての質問に対する肯定割合も学年差はあるが、ほとんどの項目で市の平均より高く、「自分から進んで学習している」については、低・中学年では80%以上であり、学習に対する意識の高まりが感じられる。
- ・学校の授業以外の学習時間は、全体的には市の平均と同様であった。しかし、習慣的に行っている児童とそうでない児童との差が見られた。家庭学習についての質問では、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」の肯定割合はほとんどの学年で90%を超えて高かったが、「授業で習ったことを復習している」「その日のめあてを決めて家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合が全体的に低かった。時間については学年差があるが、宿題や家庭学習を工夫し、基礎基本の定着を図っていききたい。

#### (3) 授業等への取組状況から

- ・全体的に学習の進め方が身に付き、意欲的に課題に取り組むことができる。また自分の気付きや疑問を様々な方法で追究し、自分なりの結論を出せるようになってきた児童が多いが、理解力や思考力・表現力・コミュニケーション力などには個人差が大きい。
- ・自分の考えを発表する力は付いてきているが、友達や先生の考えに耳を傾け、互いによく聞き合い、より良い考えを導く力はまだ十分とは言えない。

### 2 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

#### (1) 学校課題に関する重点目標

「自らの考えをもち、分かりやすく表現しようとする児童の育成」～学び合い、深められる授業づくり～

- ・算数的活動を通して授業を工夫改善することにより自分の考えをもたせ、算数の知識をもとに、表現したり説明したりする活動を積極的に取り入れるようにする。そして、言語活動の充実を目指して、児童同士の学び合い活動を重視し、より自分の考えを高められるような授業を創造する。

#### (2) 地域学校園関連の重点目標

○未来を拓く豊かな社会性の育成

- ・表現力を高めるため、発達段階に応じた表現の工夫を取り入れた授業を展開し、コミュニケーション能力の育成を図る。
- ・自ら課題意識を持ち、家庭での学習の時間や内容を、自発的に選択したり決定したりできる態度・習慣を

形成する。

### 3 今年度の取組（「小中一貫教育・地域学校園」に関する取組は文頭に○、「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

#### (1) 授業づくり及び教師の指導・支援の工夫（通年）

- ☆○どの児童も興味関心をもって学習に取り組めるよう、単元や題材の内容、学習計画、扱う教材や教具等を研究吟味し、工夫改善する。
- ☆単元（題材）の目標を十分に分析した上で、本時レベルで期待したい児童の具体的な姿を想定してねらいの焦点化を図る。
  - ・どの児童も実感をもって課題をとらえられるよう、課題設定および提示の仕方等を工夫する。
- ☆児童が見通しをもって意欲的に学習に参加し、継続できるよう、授業の流れや進行状況を児童が認識しやすいように示し、学習活動のパターン化やスモールステップ化などの工夫をする。
  - ・既習事項を掲示したり、補助資料やヒントカードなどを工夫したりして、どの児童も学習活動に意欲的に取り組めるよう支援する。
  - ・課題提示からまとめまでの学習内容を、視覚的にわかりやすくとらえられる板書を工夫する。
  - ・児童の学習活動の手助けになるよう、ワークシートなどを工夫したり必要に応じて個別に支援したりする。
- 「2人組」「小グループ」「全体」など、児童の実態やねらいに応じて学習形態を工夫し、児童同士で情報交換をしたり教え合ったりしながら、互いに認め合い、共に伸びられるようにする。
  - ・「何をすればよいか」「どうすればよいか」がどの児童にもわかるよう、発問や指示は具体的な表現で簡潔に伝える。
  - ・学習活動の中で、発言やつぶやきなどから児童の様子や学習活動への意欲を見取り、学習意欲が持続できるように適切な支援をする。
  - ・発表内容やノート・ワークシートへの記述内容などから児童の学習の様子（意欲や達成度）を見取り、つまづきの原因などを考察し、授業の改善に役立てる。

#### (2) 主体的な家庭学習の習慣作り（通年）

- ☆適切な分量・内容の宿題を出し、保護者とも連携しながら、家庭学習の習慣を身に付けられるようにする。
- ☆○家庭での自主学習を奨励し、学年の実態に応じて指導・支援を行い、自分で計画を立て、主体的に家庭学習が進められるようにする。

#### (3) 各教科における基礎・基本の確実な定着（通年）

- ☆4～6学年全学級の算数科および6学年国語科において少人数・習熟度別学習・TTを導入する。児童の実態や単元のねらい、学習効果等を考慮して形態を工夫し、かがやきルームと連携して計画的に学習を進める。
- ☆基礎・基本を確実に定着させるための学習の時間（じっくりタイム）を日課表に位置付けて基礎的な学習内容の復習を行う。
- ☆○日常の授業において、児童が自主的かつ意欲的に学習できるよう配慮しながら指導支援し、漢字や計算などの基礎的な学習内容の定着を図る。
  - ☆読書タイムを日課表に位置付け（週2回）、読書を奨励する。
  - 話の聞き方・発表の仕方・ノートの取り方など、基本的な学習態度や技能を身に付けさせ、望ましい学習習慣づくりに努める。
  - 問題解決のために必要な情報の収集・選択とその活用の仕方について支援し、自力解決する力を育てる。

#### (4) 豊かな感性をはぐくむ体験的な学習の推進、家庭・地域・関係機関との連携・協力

- ・ボランティアティーチャーを積極的に利用し、専門家の卓越した指導を受けさせ、学習活動をより深いものとする。
- ☆地域や公共機関との連携により、インターンシップ（6学年）など、地域の施設を利用した学習を展開する。（八幡山、地域の商店や事業所、公共施設など）
- ☆授業や学習支援の充実のため、学校自由参観日（12月）を設ける。また、学校の情報を、学校だより・学年だよりやホームページ等で計画的・継続的に発信・提供する。（年間）
- ☆保護者に呼びかけ、早寝早起きの習慣づくりやテレビ・ゲーム等の家庭での約束づくりを奨励する。（4月・2月保護者会等）

## 平成28年度 児童生徒指導に関する取組

### 1 児童生徒指導上の主な実態

#### (1) 問題行動等調査から

- ・全体的に落ち着いた生活が見られた。いじめと考えられる事案は確認されなかった。
- ・2年生と4年生で暴力行為と認識される事例が2件、5年生で不登校と認識される事例が1件あった。該当児童への対応を職員全員で協議、指導体制の確立と保護者の協力・教育相談等他機関との連携を強化し、鋭意対応中である。昨年度より解決へ前進していることが感じられる。

#### (2) 学習と生活についてのアンケートから

- ・あいさつに関しては、肯定的回答割合が増加傾向にある。あいさつ運動で積極的にあいさつすることが浸透したためと考えられるので、指導を継続したい。特に地域の人にあいさつしようという意識が高まっているので、家庭や地域と連携した指導をさらに充実させたい。
- ・「きまりやマナーを守っていますか」の項目も肯定的回答割合が増加傾向にある。ほとんどの学年で9割の児童が意識して守っている様子なのでさらに指導を充実したい。決まりやマナーを守ることについては学校満足度の数値との関わりも強いので、特に指導し充実を図ってきたい。
- ・平日の就寝・起床時刻については、市の平均と同じ傾向になるが、遅いか早いかでやや二極化している傾向がある。
- ・全国的な調査でスマートフォンの使用、テレビゲームを遊ぶ時間が短いほど学力テストの結果が高いことが発表されたが、個人差が大きいものの、本校ではこうしたメディアに触れる時間が長い児童が多い。もう一つ学力テストとの関連があるとされる読書量については、本校は多読の傾向がある。家庭との連携の上、指導を充実させていきたい。

#### (3) 学校生活の状況から

- ・全体的に物おじをせず、はきはきとして素直な児童が多い。その中でわずかではあるが、自己中心的な考えから他者に対し思いやりに欠ける言動をする児童が見られる。
- ・縦割り班の活動や登校班では、異年齢集団で班長を中心に、上級生も下級生も助け合い励まし合って活動に取り組む姿が見られる。児童会の活動が充実し、特に傾向が顕著になってきた。
- ・あいさつや言葉遣いなど基本的な生活習慣が身に付き、自分のことがしっかりできる児童とそうでない児童との個人差が目立つ。
- ・学習や特別活動への参加意欲は高く、創造的な活動を好み、友達と協力して楽しみながら様々な活動を行うことができる。

### 2 今年度の重点目標（「小中一貫・地域学校園」に関する重点目標は、文頭に○または当該箇所の下線）

自分を大切にし、他者もかけがえのない存在として大切にできる態度・実践力の育成

- ・ 心のこもったあいさつや言葉づかいの育成
- ・ 自分・友人・家族・地域を大切に思える心の育成
- ・ 進んで自分の責任を果たそうとする力や態度の育成

### 3 今年度の取組（「小中一貫・地域学校園」に関する取組は文頭に○、「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

#### (1) 思いやりの心の育成

- ・授業において、協力し合い、認め合えるような場を積極的に設けていく。
  - ・野外給食（6月、11月）やウォークラリー（6月）や山野横断大会（11月）等の八幡山公園の効果的な活用を通して、身近な自然と触れ合うことで、豊かな感性を育み、お互いに協力し合う心情の育成に努める。
- ☆児童会で年間を通しての活動計画を立て、目標をもって縦割り班で異学年交流を推進し、思いやりや感謝する心の大切さを理解させ、道徳的実践活動を充実させていく。

#### (2) 基本的な生活習慣の定着

☆時計を見て着席する指導を徹底させる。（通年）

○☆児童会活動を中心に、「あいさつ運動」の充実を図り、心のこもったあいさつができるようにする。（通年）

☆いじめアンケート（6月、9月、11月）やQ-U検査（6月、11月）の実施により、いじめの防止と早期

発見、早期対応を行い、教育相談（6月、1月）等により、児童理解に努める。

☆いじめゼロ月間、いじめゼロ集会の内容の充実を図り、いじめを許さない集団づくりに努める。

☆「昭和の子10の約束」を奨励し、年間を通して生活習慣チェックを行う。

☆廊下の歩行を落ち着いた安全なものにする「歩こう歩こう静かに歩こう運動」を継続し、児童会をはじめとした児童の自主的な活動により、児童の規範意識と実践力を高める。

○☆道徳の時間と学級活動において、生命や人権を尊重し、いじめを許さない態度や実践力を育てる授業の実践をする。

### (3) 勤労意欲の育成

・各学期に清掃強化週間を設定し、指導の焦点化を図る。その際、児童の相互評価等により一人一人の良さを認め、意欲的な活動が継続できるように支援する。

・児童会、奉仕、飼育栽培活動等を通して、児童の主体的な活動が推進できるよう活動の場や方法の工夫を行う。

### (4) 望ましい集団作りと個に応じた指導の充実

○・朝の活動で「読書タイム」を設け、本に親しむ環境作りに努めるとともに、地域ボランティアによる読み聞かせの充実を図り、豊かな情緒を育む。

○・水曜日の昼休み「のびのびタイム」では、クラスや縦割り班で過ごす時間を作り、児童同士や児童と教師の心の交流を深める。児童会で縦割り班活動の計画が刷新され、充実してきたので、学級での交流もより豊かなものになるように計画的に指導する。

○☆学習活動の様々な場面で学び合いの場を設定し、人とのかかわりを通して、共に学び、学習活動に取り組むことを通して、コミュニケーション能力や社会性を育てる。

### (5) 家庭や地域、関係機関との連携

○☆魅力ある学校づくり地域協議会、PTA、地域諸団体などと連携・協力し、地域ぐるみのあいさつ運動を展開する。

○☆授業参観、学校自由参観日、保護者会等を通して、保護者や地域との連携を密にして、心豊かな児童の育成に努める。

☆読み聞かせボランティアの活用により、読書に親しむとともに地域との連携を図る。

☆学校で情報モラルの育成を図るとともに、家庭での携帯電話やインターネットの利用にルールを設け、「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」に協力してもらえるように、保護者への啓発を図る。

○☆小中一貫教育の趣旨を踏まえ、学校・家庭・地域それぞれの立場から情報交換を行い、児童生徒の健全育成について考える機会とする。

## 平成28年度 健康（保健安全・食育）・体力に関する取組

### 1 健康（保健安全・食育）・体力に関する主な実態

#### (1) 定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから

・高学年の視力低下が徐々に増えているが、低年齢からの視力低下、または、その疑いのある児童が増えてきている。

・50m走（瞬発力）20mシャトルラン（持久力）、ソフトボール投げ（投力）、立ち幅跳び（筋パワー）では県平均を下回った学年が多い。

・長座体前屈（柔軟性）、握力（筋力）は優れ、県平均を上回る学年が多い。女子は、握力、反復横跳び、上体おこしも県平均を上回った学年が多い。

#### (2) 元気っ子健康体力チェックのアンケート及び学習と生活についてのアンケートから

・「運動やスポーツをすることは好きですか。」の項目では、肯定割合が80～90%程度で、運動好きな児童が多い。また、「運動することが大切だと思いますか。」の項目では、肯定割合が90%以上という高い結果であった。しかし、「進んで運動していますか。」の項目では、肯定割合が50～70%と下がっている。

・「早寝早起きを心がけていますか。」の項目では肯定割合が市の平均よりわずかに低い結果である。

・「食生活について」「健康や体力、安全について」のアンケートでは、ほぼ全項目において市の肯定割合と同様の数値を示している。

#### (3) 授業や体育的行事等への取組状況から

- ・運動を好む児童とそうでない児童の二極化が見られるが、授業や体育的行事等には進んで参加する児童が多い。
- ・体育的行事では、協力して仲良く活動できる児童が多い。
- ・楽しく活動はできるが、さらに上手になろうという向上心が不足しているように思われる。

## 2 今年度の重点目標（地域学校園内で共通する重点目標は、文頭に○または該当箇所の下線）

自他の命や健康の大切さを知り、健康・安全・体力の向上に心がける態度・実践力の育成

- ・ 健康・安全に心がける力や態度の育成
- ・ 進んで体力や運動能力を養う態度の育成
- ・ 仲良く・規律ある生活のできる自立の心の育成

## 3 今年度の取組（地域学校園内で共通する取組には文頭に○、「学校教育スタンダード」に関する取組には、文頭に☆）

### (1) 体力の向上

- 学びの継続（特に投力を高める運動に重点をおき、地域学校園では、バトン投げや投力向上の補助運動の取り組みを共通して実施する。）
- ☆元気っ子健康体力チェックの結果を踏まえ、重点種目を明確にして教科体育で継続的に補強運動を取り入れたり、授業内容を工夫したりして体力の向上に努める。（発達段階におけるサーキットの実施）
  - ・ ミニマム達成を意識して、教科体育で発達段階に合わせた運動を行う。
  - ・ 水泳、縄跳び、鉄棒検定を実施し、児童が自ら意欲を持って運動に親しめるよう工夫する。
- ☆運動委員会における児童の自治的活動を充実させ、ミニスポーツ大会などの行事を通して運動の楽しさにふれる機会とする。
- 休み時間の過ごし方の工夫や運動用具の貸し出しなど、児童が体を動かす機会を増やし、運動を日常化できるように努める。
- ☆地域の自然（八幡山公園）を活用した体育的行事（山野横断大会11月）を実施し、意欲を持って楽しみながら運動を行わせるとともに、起伏ある活動場所での体力の向上を図る。
  - ・ 体育的行事（ウォークラリー6月、運動会10月、山野横断大会11月）では、事前に地域にポスターを掲示したり、当日の保護者協力を依頼したりして、地域との連携を図りながら運動に親しむ場を設定する。

### (2) 健康な生活

- ☆朝食をとっているかどうかを保健室来室時に調査し、一人一人の状況に応じた適切な個別指導を行う。
- ☆家庭科や学級活動において、学校栄養士とのTTにより食と健康についての授業内容を充実させ、心身の健康育成と健全な食生活について児童の意識の高揚を図る。
- ☆保健の学習や学級活動において、養護教諭とのTTによりきめ細かな指導を行い、自分の健康について関心を持って生活を送ることができるようにする。
  - ・ 健康委員会の取り組みを工夫し、児童が自分の体や健康について感心を持ち、進んで健康的な生活を送れるようにする。

### (3) 家庭・地域との連携協力

- ☆「食育だより」や「保健だより」を定期的に発行し、望ましい食習慣に関する情報や健康な生活のしかたなどに関する情報を知らせ、健康についての意識の啓発を図る。
- ☆交通安全教室、不審者を想定した避難訓練・防犯教室を関係機関と連携協力して実施する。
- ☆不審者情報などの情報を提供して、地域ぐるみで安全対策を進める。

